山桝大夫

岩城實記

十五
十六

へ13
3304
8

へ13
3304
8

魏譯書　繪本　曲亭馬琴之作
倭軍書　其外諸先生作
唐軍書キ本　軍書
隨筆物　敵討
國々名所　諸家驗動
近世戰爭書類　御捌物
滑稽物

右之外數品市店ニ當ル拙著ニ非ス

書物賣捌所　東京牛込細工町
誠光堂　池田屋清吉

池清

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部

一筆啓呈紙數葉揮毫之事

兵乱之節三木住之事

池清

いくそのこれて
浜ひりちのひり
り秋のきとさ
さ手をさ
らり浜これ
ろもまぜて
ありみのいそ
ホ夜姫これ

おりひきれてうろれありを
情そそぬ家秋ぶ二人の
天を秋ちぬくみ
帆を十ぶんくくて
の玉へとそこうけ母屋
ぶう浦安の陸のもの
この深い雪赤郎をあぐる千
の私つびてうきおまく舞昌

の紀ノ…てうぎ…
家業のいとまみ…
の陳のまより…
とまねび又京…
舞よりとこび…
う仏…
地ありて世…
中多の陳千…

て法師をうひゞける体まで
えまをそ法師は猿まね像
知をえ発文まうす
出〳〵船
〳〵この三年まうす生涯
いづくのとまりのとまりのとまり

あるに高き
いよ〳〵弥通
ひもも抱
こへをめ
とおひ出
の幼年の
めつゝひ

源さん婦
七年ぶり答
妻いろ〳〵十三
丈いろ〳〵
〳〵婦い
抱里へ
ん妻い別
婦を

れ行さそも生るものの
うたて減たる命をしらで
といひあざ笑ふ空蟬の大事の
るとそ果なき話柄あるをみる
れて古をそもれ接海さ
さるつまくせさたの
みあるま空蟬のまのうそり
ちれぬ波をたのまて

鬼も悦ふこそまが宝
といふをもつて
もつれぬ業よ承
の服をひしまし大夫
さげさんぐ梯子
日毎毎

る。前世の事を
沒却もつとも
屋の世界も
まゝあるべき
ことゝ沖の
うまつゝ
責でも
と兄弟

大無人そのとき仰父
どの三年中に父を仰ぎ情ふる
きものそこのありてよ
うり事ありー仰ありものを
多使ふ初兄弟次く
ら栗苗ともやこふる節よ
下男よりつけて使ひせ
あどしくなりれを父の

孝の誓れる時ここ百ど
今日をそぐそもる世川ろそう
ふ焼めー
飯をもつぶせ兄弟の心を
あぐきめもろ地獄よ
仏ひりこと
うふしきうもこ事ぶ
あさ十をよろこびうく筆

見をあつめ
ありける次第

岩槻宮祀奉拝
遥拝奉る
事
次に昨日の兄弟三兄を
返す事
先陰を矢のごとくつぐぬ
月日如し
十万騎遥拝奉る

十三年の年ありが
未だ六年ならざる内
七つめとはたくさんと
そこの事をきつみあいろみ
事をつさえ理つめもし
爲しやうもなく安んじもする
能事をも終ひ三年を
出でて第一の業として
婦と地獄
つくりをも営ひ婦
も今更
なきりぎりすの
婦たる身は
出でるくるまの

平和な窓辺の秋あん
那つくを事
をまゝりたる
娘の家をおこさー先の
うづらの煮せ
ばりまでみのの
のみを宝
まりに

もあり。左右より横ぎり
て寺のうちくをへだて
いうすの坂をのぼりて
谷をたゝきけてちびるくと
とそのうへをこえ
たるいはまでふりあ
まりたること思

の栂(たも)くあげさなるぬ俳(たわ)
座(ざ)ーたりもある 池清

安政壬戌年 指六年 池清